



えひめハッピーライフ



愛媛生まれ愛媛育ち

愛媛大学 医学部附属病院精神科 助教

園部直美 先生

愛媛で育ち育てる

私は愛媛県の南にある宇和島市で生まれ育ちました。中学生のころから人の心のありように興味を持つようになり、精神医学を学びたいと愛媛大学医学部に進学しました。大学卒業後は愛媛大学の精神科医局に入局して、医師2年目で入学した博士課程では神経心理学、老年精神医学を学び、松山市の南にある中山町で認知症の疫学調査をしました。医者7年目で同業の夫と結婚して現在は7歳、6歳、2歳、0歳の4人の子供を育てながら愛媛大学医学部附属病院で臨床、研究、教育をしています。

子供が産まれるまでは暮らしの中心は研究にあり、臨床や研究のために病院や研究室で夜を明かすこともしばしばという生活をしていました。しかし医師8年目で1人目の子供が産まれてからは生活が一変しました。子育てという別の軸が生活に加わったのです。夫も愛媛県出身ですが、それぞれの実家までは車で1時間以上かかり、実親も義理親もまだ仕事をしているため親を頼ることは難しく、夫婦で家事・育児を分担しながら生活するようになりました。



環境に恵まれて

それでもどうにか今日まで暮らせてきた理由をつらつらと考えてみると、家族の協力もさることながら愛媛という土地に助けられているいくつかの点が思い当ります。

1点目は、当県は家賃などの生活コストが都市部に比べて比較的安く、子育て家庭でも職場の近くに住宅を構えやすいという特徴があります。このため、休みの日や夜間などでも家事の隙間の時間に職場に顔を出して臨床や研究をフォローができます(たいていは平日にこなせない山積みの書類業務などにおわれることが多いのですが...)。

2点目としては、幼稚園・保育園が充実している印象があります。私は外来診

療をしているため育休を早めに切り上げ、子供が生後2ヶ月〜半年ぐらいで仕事に復帰しましたが、その際にも待機などで困ることはありませんでした。また今年、長男が地域の公立小学校に入学し、放課後の過ごしませ方が悩ましい状況にありました。現役で子育てされている先輩女性研究者の先生にもお話を伺い、学童も学校のものだけでなく民営の団体も複数あり、また地域の方が行政の委託を受けて子育て支援をしていたらけるファミリーサポート制度があることを知り(松山市には費用の補助制度もあります)、それらを活用することで、放課後の学校→学童・習い事→家庭への連絡がとれて夕方の時間を比較的気にせずにフルタイムで勤務を続けています。

3点目には、子供の医療体制の充実していることが挙げられます。子供の急な発熱などによる病院受診が日常まあり、特に子供が多いとドミノ倒しのように熱を出して途方に暮れることも少なくありません。ただ、私の住んでいる松山近郊は平日だけでなく夜間休日でもアクセス性がよく、肺炎や手術など不測の事態でも地病診連携がスムーズで、不安な思いをすることも少なかったように思われます。実際、4人の子供でこれまで計4回(1)の入院を経験しましたが、どの病院でも安心してお任せできました。

一こうした地域の特性に助けられている部分も大きいと改めて気づけたのですが、職場でも、平成23年度から愛媛大

学で実施している若手研究者キャリア支援事業を利用させていただいて、研究のデータ管理や疫学調査の膨大な資料作成などを助けていただいています。院生時代には自分で夜中までかかってしていた業務を助けていただくことで、子育て生活とペーパースは幾分ゆとりにはなりましたが研究生活を両立して続けられてい、いつも感謝しています。

愛媛にいつつ

最後に愛媛のいいところをもうひとつ、ご飯がおいしいーこれにつきます。

私は診療や疫学調査で県内をいろいろ回ることが多かったのですが、同じ愛媛県でも瀬戸内側の穏やかな平地、山間部ののどかな集落、豊後水道など外海に近い港町などで土地土地の風情がずいぶん違って印象的でした。海産物や山の幸などもバリエーションがあり、そこに名物や旬を感じさせる食べ物があ、いく先々でいろんな発見があります。興味をお持ちになられた方、ぜひ愛媛大学にお越しください。

